羅　臼　町

平成２５年度（平成２４年度対象）

羅臼町教育行政の点検・評価報告書

羅臼町教育委員会

目　　次

第Ⅰ章　はじめに

１　はじめに　２
２　評価の方法　２
３　羅臼町教育行政評価委員　２

第Ⅱ章　羅臼町教育委員会の活動状況

１　平成２４年度教育委員会の開催　３
２　教育委員の研修及び活動の状況　６
３　条例・規則等の制定、計画等の策定状況　６

第Ⅲ章　平成２４年度の主要施策

１　幼稚園・学校教育の主な推進項目と評価　７
（１）重点項目　７
（２）幼稚園教育・学校教育の推進　７
１点目　「人間形成を培う幼稚園教育」　７
２点目　「確かな学力を育む学習指導」　８
３点目　「信頼される学校教育」　９
４点目　「豊かな心や健やかな体を育む教育」　９
５点目　「羅臼町支援教育の推進」　１０
６点目　「自然環境教育の推進」　１１

２　学校教育に関わるその他の施策
（１）主な調査　１１
（２）いじめ・不登校への取り組み　１１
（３）教育委員会が行った主な教職員の研修等　１２
（４）各種学校・学級支援　１２

３　社会教育の主な推進項目と評価
（１）社会教育事業　１３
（２）文化財保護調査事業　１４
（３）公民館事業　１５
（４）図書室事業　１５
（５）社会体育事業　１６

第Ⅳ章　外部評価委員の意見

１　学校視察を通して　１９
２　内部評価報告書から　２０

第Ⅰ章　はじめに

１　はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２７条の規定に基づき、平成２４年度に羅臼町教育委員会の権限に属する事務の管理・執行状況についてまとめ点検・評価を行い、その結果に関する報告書を教育に関する学識経験者の意見を付して議会に提出し、公表するものです。

この報告書により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしてまいります。

２　評価の方法

平成 ２４年度に教育委員会が取り組んだ学校教育に関する主な施策、社会教育に関する主な施策について、現状や背景を踏まえ内部評価を行い、実績を明らかにして結果を次の通りまとめたものです。

Ａ：達成状況の充分なもの（効果が現れているもの）
Ｂ：ほぼ達成しているもの（一部効果が現れているもの）
Ｃ：進行中（進行はしているが効果がみられないもの）
Ｄ：計画はしたが未着手のもの。

３　羅臼町教育行政評価委員

羅臼町教育行政点検・評価にあたっては、該当する幼稚園・小中学校の状況を視察や、会議等を通じて各事業の点検評価内容の説明を行うとともに、次の５名の各委員から具体的な意見などをいただきました。

【外部評価委員】

氏　名	住　所	職　業	備　考
二　宮　信　一	釧路市城山１－１５－５５	北海道教育大学釧路校准教授	教育学・特別支援教育
境　　智　洋	釧路市城山１－１５－５５	北海道教育大学釧路校准教授	地域学校教育
芦　崎　輝　雄	羅臼町八木浜町２４	会社役員	元羅臼町教育委員長
関　　勝　則	羅臼町麻布町５０	会社役員	道社会教育アドバイザー
佐々木　泰　幹	羅臼町幌萌町６２３－４２	知床山岳ガイド	知床山海塾塾長

※委員の任期は平成２４年４月１日から平成２６年３月３１日までです。

第Ⅱ章　羅臼町教育委員会の活動状況

１　平成２４年度教育委員会の開催

羅臼町教育委員会は、毎月１回の定例会と、必要に応じて臨時会や教育懇談会などを開催し教育課題に対する協議を行いました。

会議の開催状況は次の通りです。

開　催　日	付　議　案　件
平成２４年４月２３日 第４回定例会	【報告事項】 第５号　諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第１１号　平成２３年度教育費予算補正について 議案第１２号　平成２４年度準要保護児童生徒の認定(追加)について
平成２４年５月　９日 第２回臨時会	【協議事項】 議案第１３号　羅臼町立小・中学校適正配置計画検討委員会意見書の取り扱いについて
平成２４年５月２１日 第５回定例会	【報告事項】 第６号　諸会議・諸事業について 第７号　羅臼町幼・小・中・高一貫教育研究会全体会について 第８号　小学校におけるフッ化物洗口について 【協議事項】 議案第１４号　平成２４年度教育費補正予算について 議案第１５号　羅臼町教育委員会の事務局及び所管機関の組織に関する規則の一部を改正する規則の制定について 議案第１６号　羅臼町教育委員会の事務局処務規定の一部を改正する規定の制定について 議案第１７号　羅臼町教育委員会の事務局等の職名に関する規則の一部を改正する規則の制定について 議案第１８号　羅臼町中高一貫教育における自然学習単位取得者に対する資格・称号等認定制度創設検討委員会設置要綱の廃止について 追加議案第１９号　羅臼町立中学校改築に係る教育委員会の意見書について 【その他】 ①　ユネスコスクール登録について ②　平成２４年度　教育委員の学校訪問について ③　各種会議・研修会について ④　各種委員の委嘱について ⑤　その他
平成２４年６月１９日 第６回定例会	【報告事項】 第 ９ 号　諸会議・諸事業について 第 10 号　幼稚園の１学期終了式の日程変更について 第 11 号　平成 24 年度第２回定例町議会について 【協議事項】 議案第２０号　羅臼町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について 議案第２１号　羅臼町学校給食センター設置条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 【その他】 ①ＡＬＴの臨時的任用について ②根室管内教育委員会連合会総会・教育委員研修会について ③ユネスコスクール登録認定証交付式について ④教育委員会外部評価委員会第１回委員会（学校・幼稚園視察）について ⑤教育委員の学校・幼稚園訪問について ⑥北海道市町村教育委員研修会並びに兼羅臼町教育委員道研視察研修について ⑦羅臼町教育情報紙の発行について

平成２４年7月２４日 第7回定例会	【報告事項】 第１２号　諸会議・諸事業について 第１３号　新規ＡＬＴ（外国語指導助手）の任用について 【協議事項】 議案第２２号　羅臼町立幼稚園規則の一部を改正する規則の制定について 議案第２３号　羅臼町育ちの手帳「こんぱす」運用規則の制定について 【その他】 ①平成２４年度教育委員学校訪問の報告 ②北海道市町村教育委員研修会の報告 ③その他
平成２４年8月２４日 第8回定例会	【報告事項】 第１４号　諸会議・諸事業について 第１５号　「修学旅行の引率業務に従事する羅臼町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領」の廃止とこれに替わる新たな要領の新設について 【協議事項】 議案第２４号　平成２４年度教育費予算補正について 議案第２５号　平成２５年度に使用する教科用図書（附則第9条図書）の採択について 【その他】 ①平成２５年度新規採用幼稚園教諭の募集について ②知床自然大学設立に向けての羅臼町説明会の開催について ③その他
平成２４年9月２７日 第9回定例会	【報告事項】 第１６号　諸会議・諸事業について 【協議事項】 選挙第　１　号　羅臼町教育委員会　委員長の選挙について 議案第２６号　羅臼町教育委員会　委員長職務代理者の指定について 議案第２７号　羅臼町紀要育委員会教育長の任命について 議案第２８号　平成２４年度準要保護児童・生徒の認定(追加)について 【その他】 ①平成２４年度（平成２３年度対象）教育行政の点検・評価報告書について ②平成２４年度全国学力・学習状況調査の結果について ③その他
平成２４年１０月２３日 第１０回定例会	【報告事項】 第１７号　諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第２９号　平成２４年度教育費予算補正について 議案第３０号　羅臼町営体育施設等設置条例の一部を改正する条例制定について 【その他】 ①平成２５年度採用町立幼稚園教諭の応募状況について ②校長等との教育懇談会について ③教育関係者合同忘年会について ④その他
平成２４年１１月２７日 第１１回定例会	【報告事項】 第１８号　諸会議・諸事業について 第１９号　平成２４年度教育費予算補正（前回上程案件）に係る町長との協議結果について 【協議事項】 議案第３１号　平成２４年度教育費予算補正 【その他】 ①平成２５年度採用町立幼稚園教諭採用試験の結果について ②平成２４年度ユネスコスクール発表会について

	③教育懇談会・教育関係者合同忘年会について ④平成２４年度「知床学士」認定試験について ⑤その他
平成２４年１２月１４日 第１２回定例会	【報告事項】 第２０号　諸会議・諸事業について 第２１号　教職員給与費の適正執行等に関する調査の結果について 【協議事項】 協議事項はありませんでした。 【その他】 ①広尾町中高一貫教育実践報告会について（金澤自然環境教育主幹より報告） ②知床学士認定試験受験願書の提出状況 ③平成２５年度成人式について ④道研地教委連携セミナーについて ⑤標津町・羅臼町合同研修会について ⑥その他
平成２４年１２月１４日 第１回教育懇談会	羅臼町校長会との教育懇談会 「児童生徒の学力の向上の現状と具体的な対策について」
平成２５年１月２２日 第１回定例会	【報告事項】 第１号　諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第１号　平成２４年度教育費予算補正について 議案第２号　平成２４年度児童生徒表彰について 【その他】 ①冬休み学習サポート学生支援事業について ②道研地教委連携セミナーについて ③知床学士認定試験の結果について ④標津町・羅臼町合同研修会について ⑤平成２４年度中学生の進路希望状況について ⑥給食費の徴収方法の一部変更について ⑦その他
平成２５年２月７日 第１回臨時会	【協議事項】 議案第３号　教職員の処分について
平成２５年２月２５日 第２回定例会	【報告事項】 第２号　諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第４号　平成２４年度教育費予算補正について 議案第５号　平成２５年度教育行政執行方針について 議案第６号　平成２５年度教育費予算編成について 【その他】 ①平成２４年度幼稚園・小中学校卒業式の日程について ②教育関係合同送別会について ③その他
平成２５年３月２１日 第３回定例会	【報告事項】 第３号　諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第７号　「羅臼町学校給食実施規則」の一部改正について 議案第８号　平成２５年度準要保護世帯の認定について 【その他】 ①平成２５年度教職員辞令交付について ②平成２５年度校長・教頭・園長・主任合同会議及び教育関係合同歓迎会について ③その他

ⅰ　開催回数：定例会…１２回、臨時会…２回、懇談会…１回

ⅱ　報告事項：２０件、協議事項：２８件、選挙：１件、その他の案件：４０件

2　教育委員の研修及び活動の状況

① 研修会に関する事項

ⅰ　根室管内教育委員会連合会研修会（管内別海町・尾岱沼小・別海中央小視察）に参加した。
ⅱ　北海道教育委員会連合会研修会（札幌市）に参加した。
ⅲ　教育委員研修会　江別市道立教育研究所にて酒向所長・企画研修部長等の講話及び模擬授業体験及び教育懇談会を行った。
ⅳ　教育委員研修会「学力の向上を図る各校の取り組み係る校長会との教育懇談会」
ⅴ　教育委員研修会「羅臼町の児童生徒の体重と身長について」

② 学校行事に関する事項

ⅰ　羅臼幼稚園、春松幼稚園の卒園式・入園式・運動会・発表会・公開授業研への出席
ⅱ　羅臼小学校、春松小学校卒業式・入学式・運動会・学芸会・公開授業研への出席・学習指導法研究大会への出席
ⅲ　羅臼中学校、春松中学校卒業式・入学式・体育大会・文化祭・公開授業研への出席
ⅳ　羅臼高等学校卒業式・入学式・学校祭・中高一貫教育等への出席

③ 社会教育に関する事項

ⅰ羅臼町成人式　ⅱ羅臼町文化祭　ⅲ文化協会総会　ⅳ女性連総会　ⅴ町Ｐ連総会
ⅵ青少年健全育成町民会議総会　ⅶ補導センター総会ほか

④ 体育行事に関する事項

ⅰ　国後眺望駅伝競走大会　ⅱ総合型地域スポーツクラブ「らいず」総会

⑤ その他

ⅰ　知床ユネスコ協会総会出席　ⅱ　教育委員の幼稚園・学校訪問
ⅲ　高校生の水産教室　ⅳ羅臼町敬老会ほか

3　条例・規則等の制定、計画等の策定状況

議案番号	条例・規則等の制定、計画等名	担　当　課
第１５号	羅臼町教育委員会の事務局及び所管機関の組織に関する規則の一部を改正する規則の制定について	学　務　課
第１６号	羅臼町教育委員会の事務局処務規定の一部を改正する規定の制定について	学　務　課
第１７号	羅臼町教育委員会の事務局等の職名に関する規則の一部を改正する規則の制定について	学　務　課
第１８号	羅臼町中高一貫教育における自然学習単位取得者に対する資格・称号等認定制度創設検討委員会設置要綱の廃止について	学　務　課
第２０号	羅臼町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について	学　務　課
第２１号	羅臼町学校給食センター設置条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	学　務　課
第２２号	羅臼町立幼稚園規則の一部を改正する規則の制定について	学　務　課
第２３号	羅臼町育ちの手帳「こんぱす」運用規則の制定について	学　務　課
第３０号	町営体育施設等設置条例の一部を改正する条例制定について	社会教育課
第7号	「羅臼町学校給食実施規則」の一部改正について	学　務　課

第Ⅲ章　平成２４年度の主要施策

【内部評価の表示】
A…十分に実践し一定の成果がみられる
B…実践し一部成果がみられる
C…着手したがまだ成果が見られない
D…未着手或いは検討中

１　幼稚園・学校教育の主な推進項目と評価

（１）重点項目

概　　要	総合評価	改　善　点　・　意　見　等
◎子ども達一人ひとりが「生きる力」や「確かな学力」育み、「健やかに成長」していくことの実現に向けた取組み。（総合点）	B	・園児一人ひとりに「生きる力」や「健やかな成長」を図るための「確かなみとり」「個の課題の明確化」「具体的な援助」などがまだ充分とは言えない。 ・確かな学力については、１ 年生には難はあるがほか学年は概ね満足できる。 ・概ね達成できていると考えているが、さらに改善できる点があると思われるため ・性と生の学習の充実が図れた。 ・習熟度別の少人数指導を実践できた。〃
◎学校・家庭・地域がより一層連携を深めながら教育活動を推進し、子ども達にとって望ましい教育環境の整備に向けた取組み。	B	・連携を深めるべく取り組みを進めているがそれぞれに課題もありまだ充分とは言えない。 ・教育活動等のソフト面であれば B 教育環境等のハード面であれば D ・家庭や地域との連携という面ではさらに具体的な方法を考えていかなければならない。 ・保護者、学校評価等での意見を取り入れて学校改善を企画している。〃

（２）幼稚園教育・学校教育の推進

１点目　「人間形成を培う幼稚園教育」

学校教育は、家庭や地域社会との連携はもとより幼児期から高校までを視野に入れた体制づくりと教職員の専門性の向上を図ることが必要ですので、教育における不易と流行をしっかりと見定め、時代の進展に対応した施策を積極的に推進します。

概　　要	総合評価	改　善　点　・　意　見　等
①小学校との連携を一層強化し、子どもの発達や学びの連続性を確保するよう取り組みましたか。（幼小連携プログラムの作成）	B	・接続カリキュラムを作成し、教育課程に位置づけている。 ・「接続カリキュラム」「スタートカリキュラム」を幼小で協同して作成することが必要。 ・幼小連携プログラムの作成について、実際に毎年幼小連携は行っており、実践例も多くありますが、幼小連携プログラムの作成は行っていない。
②小学校教育との円滑な接続を推進するために、教職員や園児と児童の交流もそれぞれの教育課程のなかに位置づけ、積極的な連携を進めましたか。	B	・必要に応じて交流できるようになっているが、教育課程に具体的に位置づけられてもらうよう（小学校）な取り組みが必要 ・円滑な接続とともに、交流を通して児童の下の子どもたちに対するやさしさや接し方を育むことができている。
③北海道立教育研究所や特別支援教育センターなどが行う研修会を活用し資質の向上を図る取り組みにより成果がありましたか。	A	・特に、正しい言葉遣いで、保護者と連携し成果が上がった ・道研フリープランに全教員が参加し、研修を深めることができた。

④フッ素塗布に加え保護者の協力を得ながら４歳児・５歳児には歯磨き指導と併せてフッ化物洗口を行い園児の虫歯予防を推進しましたか。	B	・保護者の協力を得られていると判断しているが、姉弟でフッ化物洗口の対応が違う家庭もあり課題はある。
⑤小学校入学の事前学習の一環として食育指導も必要でありますので、５歳児の３学期に給食を実施する効果は？	B	・とてもよい取り組みだが、毎日行われることが望ましい。理想的には年少児にこそ給食による食育が必要である。好き嫌いは年長児では固定化してきている。
２点目　「確かな学力を育む学習指導」 基礎学力の定着と向上を図るため、各種テストの結果から明らかにされている各校の課題解決向けて、家庭学習の定着に向けた活動を支援するほか、道立教育研究所との連携事業として教職員の指導力向上を目指した研修や理科支援員・数学支援員などの配置を実施します。小学校は新しい学習指導要領が完全実施となるので適切に対応されるよう各校の取り組みを支援します。		
①全国学力・学習状況調査の実施後の評価・改善の取り組みにより効果が表れましたか。	B	・調査後の分析結果を職員全員で研修し、評価改善に取り組んでいる。
②ＣＲＴテストを実施後の評価・改善に取り組み、ある程度の効果は見られましたか。	B	・子どもたちの定着を判断し、苦手な部分と判断された内容について補習を行うなど、十分に活用している。 ・今年度については2月8日実施予定である。
③ＰＴＡと連携し、家庭での学習習慣や生活習慣を形成する活動に取り組み、効果は見られましたか。	B	・生活習慣の形成に関わってＰＴＡと連携した取り組みはできていない。（町Ｐ連の枠組みで行われる。） ・家庭での学習習慣や生活習慣について理解をし、改善に向けた取り組みを行っている家庭が増えてきている。 ・学期ごとに生活習慣についてのアンケートを実施し結果を公表している。
④幼小中高一貫教育で、近接する異校種間の取り組みの実現（幼-小、小-中、中-高）はできましたか。 ・幼稚園と小学校間 ・小学校と中学校間 ・中学校と高校間	B B A	・必要に応じて話し合い具体化している ・中学校教員による出前授業の実施など改善が図られてきている。 ・限定した時期やイベントに限られているため本年度になってから高校の動きが鈍い。 ・従来の他に新しい試みがなされている。 ・小学校高学年との授業交流の実施。
⑤Q-U調査の 2 回実施後の取り組みにより、効果は見られましたか。	B	・Q-U により、個々の児童の状態を知ると共に、改善に向けた取り組みを全職員で確認しながら行っている。 ・生徒理解交流を学期末毎に実施した。
⑥道立教育研究所との連携で開催した夏季・冬季休業中の「教職員の研修」に参加することにより、効果は見られましたか。	B	・冬の道研フリープランには全教職員が目的を持って参加した。 ・効果の検証中である。
⑦教育大学釧路校と連携し、学習支援や放課後学習の実施をしましたが効果は見られましたか。	B	・参加する児童が年々増えている。また、本校だけではなく羅臼小学校で実施する放課後学習にも参加する児童が増えてきている。 ・放課後学習での活用はできている。

３点目　「信頼される学校教育」

　ＰＴＡ活動や学級懇談会のほか必要に応じて地域懇談会を開催するなど、地域の共通理解を深めるために学級や学校が伝えたい情報だけを伝えるのでなく、保護者や地域住民が必要とする情報を分かりやすく提供し、双方の思いを分かち合うことが重要です。 そのために、学校評価や各種アンケート調査結果の情報公開に努めるとともに、保護者や地域住民の参画しやすい環境を整え、意見交換や情報交換の場を日常的に高める工夫を重ね、学校の説明責任を果たすとともに開かれた学校づくりを推進してまいります。

①学校評価や各種アンケート調査結果の情報公開に努めましたか。	A	・基本的に公開している。きめ細かく答えることを大切にしている。 ・学校便りで全家庭に知らせているとともに、対応できるところから改善している。 ・学校評価アンケートを年二回実施し、その結果は全家庭に配布するとともに学校通信、ブログ等でも公表している。また、PTA 役員会や学校評価委員でも意見交流を実施した。 ・生徒の授業評価アンケートについても、結果を公表し、職員研修でも取り上げ日々の授業改善の資料としている。
②意見交換や情報交換の場を日常的に高める工夫を重ね、学校の説明責任を果たすとともに開かれた学校づくりを目指すことができましたか。	B	・さまざまな手立てを工夫して子どもの育ちなど伝え、意見交換をしているがまだ十分とはいえない ・学校の説明責任という面では、保護者の意見ではまだまだ不十分な面があると考えている。 ・〃説明責任、開かれた学校づくりは A 意見交換、情報交換は B〃 ・学校側と保護者間の意識の差はある。
③確固たる職業倫理観や使命感を持ち、地域社会からの期待にも応えることができるよう、教職員の規範意識を常に高く維持するための効果的な研修を行い、法令や服務規律の遵守など日々の意識の高揚を図ることができましたか。	B	・選ばれる厳しさがない。 ・身分が保証されていることなどで、特有の「ぬるさ」に慣れてしまってはいけないと戒める必要がある。 ・定期的な研修や啓発的な資料を配布した。

４点目　「豊かな心や健やかな体を育む教育」

　豊かな人間性を育むために、知床の自然を活用した体験学習を積極的に推進し、生命尊重の心や自尊感情の高揚を図るなど、人間として持つべき規範意識や自分への信頼感、他者への思いやりなどの道徳性を養い、それらを基盤として法やルールの意義を正しく理解し適切に行動できる人間の育成を目指してまいります。

①生命尊重の心や自尊感情の高揚を図るなど、人間として持つべき規範意識や自分への信頼感、他者への思いやりなどの道徳性を養う活動に取り組むことができましたか。	B	・普段の保育を通じて生命の尊重、やさしい気持を養う、基本的な善悪の判断ができることなど身につくよう指導を進めている。 ・概ね達成できていると考えているが、道徳教育の要である道徳の時間の工夫など改善すべき点がまだまだあると考えている。 ・年間指導計画に基づいて実践を行っている。
②「体力・運動能力調査」や「学習状況調査」などの結果から見ると、体を動かす機会が減少している傾向が示されていますので、学校で体を動かすための外遊びや屋内での活動を工夫してすすめることができましたか。	B	・年度途中から「運動タイム」を設け（毎日 15 分程度）楽しみながら体をたっぷりと動かすことに取り組んでいるが、さらに内容を工夫して充実させる。 ・外で遊ぼうタイムや各委員会の企画など、グラウンドや体育館を活用した遊びが今年度は多く実施できた。しかし、冬の時期に体を動かす機会が少なく改善を図っていく必要がある。 ・体育科を中心に進めている。

③正しい食習慣を育成するために学校給食センター栄養士や養護教諭などと連携し、食に関する指導はできましたか。	B	・連携はできていない。毎日の食指導、季節や地域に応じた食材を使った食育は行っているが系統だった指導計画が必要 ・養護教諭による食育便りの発行など一定の成果が出ている。 ・栄養士との連携はしていない。 ・養護教諭を中心に学校全体で取り組んでいる。
④生活リズムを向上させるため、羅臼町ＰＴＡ連合会が推進している「早寝・早起き・朝ごはん」運動や、幼稚園や学校全体で虫歯予防に取り組むなど、望ましい生活習慣の定着に向けた活動を進めることができましたか。	B	・日々の実践で深まってきているが、一部の保護者の意識が課題である。 ・概ね達成できているが、今後も保護者へ協力を呼びかけていく必要がある。 ・生活リズムについての広報はＡ　虫歯予防はＣ。 ・機会を見つけての啓発活動を実践している。
⑤東日本大震災を教訓に羅臼町が作成したハザードマップを活用しながら、津波や土砂崩れなどを想定した避難訓練を全校で行うとともに、学校におけるすべての教職員が危機管理の一環として瞬時の対応を図るよう安全体制の一層の充実することができましたか。	B	・小中学校とも連携した訓練はできたが、園内のきめ細かなマニュアルを点検し修正する必要がある。 ・幼小中合同の避難訓練を実施するなど、状況に応じた避難訓練・避難誘導を行うことができた。 ・小学校校舎３階への避難訓練が実施できた。
５点目　「羅臼町支援教育の推進」 特別支援教育に在籍する児童・生徒や普通学級に在籍する「困り感」のある児童・生徒等、の教育的な支援を必要とする一人ひとりの成長の継続を踏まえた具体的な対応について、乳幼児から一貫した支援方策の確立に向けて福祉・保健・医療などの関係者や団体との連携を強化し、特別支援教育の充実に努めます。		
①特別支援教育に係る個別指導計画書を作成し、きめ細かな成長と発達を支える活動ができましたか。	B	・個別支援計画の定期的な見直しと修正が必要である。職員間の話し合いや支援の共有はできているがまだまだ十分とはいえない。 ・作成した個別の指導計画を適時修正しながら活用していく必要がある。 ・今年度は作成できた。
②小学校に特別支援教育支援員を配置していますが適切な支援に効果的でしたか。	A	・授業では低学年を中心に支援をしているが、休み時間などは全校児童とふれあいながら対象児童にあった支援を行っている。
③特別支援教育の考え方を生かした学級経営や教科経営を推進することができましたか。	B	・一人ひとりの特質やよさを受け止め、個に応じた指導に心がけ職員間で共有することはできているが、まだ十分ではない。
④定期的なアンケート調査や教育相談の実施により、早期発見・早期対応を図ることができましたか。	B	・早期発見・早期対応を図ることができていた。 ・定期的な研修と学校全体の検討会を実施した。
⑤困り感のある児童・生徒（いじめ・不登校・虐待等）に対して関係機関や関係団体との連携を図り、指導の充実を図っていますが効果はありましたか。	B	・保健師や発達支援センターなどとの定期的な情報交換や研修が行われている。 ・ありんこや保健福祉課の保健師の協力の下、巡回相談などを通して子どもの実態や支援を行っている。また、保護者の情報交流も行った。 ・関係機関との連携はＤ指導の充実はＡ。 ・町教委と連携したケース会議を２度実施した。

６点目　「自然環境教育の推進」 羅臼町の自然環境教育の更なる深化を図るため、幼稚園・小学校・中学校・高等学校まで一貫した自然環境教育プログラムを推進することを目指し幼稚園から高校までユネスコスクール活動を推進します。		
①各園・各校がそれぞれの特徴を活かし実態に即した共通の目標をもってユネスコスクール活動に取り組むことができましたか。	A	・教師が地域の自然環境の特質やすばらしさに対する理解を深めることや、ユネスコスクールの理念や具体的内容についての共通理解を深める必要がある。 ・年度当初計画になかったセイヨウオオマルハナバチ学習や知床学を環境省の方を講師に招いて実施することができた。 ・年間指導計画は確定できており、計画的な実践を行っている。
②自校の子ども達への発達段階に応じた教育プログラムの開発に取り組むことができましたか。	B	・専門的な指導者や機関の助言を得ながら、まだまだ教育プログラムの研究・開発の余地がある ・セイヨウオオマルハナバチ学習や知床学について、教育プログラムを整備することができた。 ・自校の教育課程が実態を考慮したものなので「教育プログラム」と銘打つものには取り組んでいない。 ・現在検討中である。

２ 学校教育に関わるその他の施策

（１）主な調査

調査月日	調　　査　　名	担　当　課
平成２４年　２月　１日	中学校ＣＲＴ調査	学　務　課
平成２４年　２月　７日	小学校ＣＲＴ調査	学　務　課
平成２４年　４月１０日	春松中学校　第１回学級満足度調査	学　務　課
平成２４年　４月２６日	春松小学校　第１回学級満足度調査	学　務　課
平成２４年　５月２２日	羅臼小学校　第１回学級満足度調査	学　務　課
平成２４年　６月１４日	羅臼中学校　第１回学級満足度調査	学　務　課
平成２４年１１月　８日	羅臼小学校　第２回学級満足度調査	学　務　課
平成２４年１１月１４日	春松中学校　第２回学級満足度調査	学　務　課
平成２４年１１月１５日	羅臼中学校　第２回学級満足度調査	学　務　課
平成２４年１２月　５日	春松小学校　第２回学級満足度調査	学　務　課

（２）いじめ・不登校への取組み

・「いじめ」による問題は発生していない。

・不登校問題については、平成 24 年度は、春松中学校において不登校問題が２件発生したが、１件は保護者と学校の連携によって解決した。もう１件については、現在担任が家庭訪問を行い、保護者との話合いをするなど登校を促すための活動が継続されている。

（3）教育委員会が行った主な教職員の研修等

開　催　月　日	研　　修　　会　　名	講　　師　　等
平成２４年5月　１日	道研プロジェクト研修会 （幼小中高一斉研修）	講師：道立教育研究所 企画研修部伊藤主査他２名
平成２４年7月　６日	羅臼町初任者研修会	講師：羅臼町教育委員会 教育指導主幹　山崎　守 自然環境教育主幹 金澤裕司
平成２４年7月２５日	道研幼稚園教諭研修（９名参加）	講師：道立教育研究所 企画研修部大西主事他４名
平成２４年7月２６日	地教委連携セミナー「一貫教育一斉研修会」 第１回目：教職員対象 第２回目：PTA 対象	講師：道立教育研究所 企画研修部伊藤主査他
平成２４年8月１日 ～3日	「北海道立教育研究所フリープラン研修」 （第１期）４名参加	講師：道立教育研究所 企画研修部伊藤主査他
平成２４年8月7日 ～9日	「北海道立教育研究所フリープラン研修」 （第２期）４名参加	講師：道立教育研究所 企画研修部主査　伊藤邦章氏 他５名
平成２４年 10月9日 ～１０日	羅臼町公民館・羅臼高等学校において 「道研ライブ配信講座」（７名参加）	講師：道研企画研修部 企画研修部 主査伊藤邦章氏他２名
平成２４年１１月　３日	北海道ユネスコスクール実践発表会（札幌市）	講師：教育大学釧路校 教授　神田房一氏
平成２４年１１月２９日 ～３０日	春松小学校公開授業研究会指導研修	講師：道研企画研修部 企画研修部　大西　有主事 企画研修部　板谷文美子主事
平成２５年１月９日 ～１１日	「北海道立教育研究所フリープラン研修」 （第３期）羅臼町公民館会場１４名参加	講師：道研企画研修部 主査　高杉直人氏 他５名
平成２５年2月　７日	小学校教員のための高校理科教諭派遣事業	講師：教育大学釧路校 准教授　境　智洋氏 羅臼高校　渡辺理実氏
平成２５年2月１９日 ～２１日	2月１９日 羅臼町特別支援コーディネーター等研修会 2月２０日 羅臼小学校において実技指導研修会 2月２１日 各小中学校における指導研修会	講師：教育大学釧路校 准教授　二宮信一氏
平成２５年3月　９日	「Q—U実施後の生徒指導実技研修会」	講師：釧路市立美原小学校 教頭　高畠昌幸氏
平成２５年3月１５日	羅臼町 ESD 研修会	講師：教育大学釧路校 教授　大森　亨氏

（4）各種学校・学級支援

事　業　名	開　　催　　月　　日	講　　師　　等
羅臼中学校 数学支援員の配置	平成２４年１１月５日～	講師：教育大学釧路校 大学院生
春松中学校 数学支援員の配置	平成２４年１１月５日～	
理科支援員事業	平成２４年９月２１日～２３日・春松小学校 平成２４年１１月５日～９日　・羅臼小学校	講師：教育大学釧路校 教育学部４年生
アフタースクール事業	平成２４年９月２１日～２３日・春松小学校 平成２４年１１月９日～１１日・羅臼小学校	
アフタースクール事業 「冬休み学習サポート学生支援事業」	平成２４年１２月２５日～２７日・羅小４～６年生 ・春小１～６年生	講師：教育大学釧路校 大学院生 羅臼高校生
防災教室の開催	平成２４年１２月１８日　春松小学校６年生 平成２４年１２月１８日　羅臼小学校６年生	講師：気象庁釧路地方気象台 教育大学釧路校 准教授 境　智洋 氏

3 社会教育の主な推進項目と評価

（1）社会教育事業

概　　要	総合評価	改　善　点　・　意　見　等
①諸会議 ・生涯学習の観点から、当町の社会教育振興策を探り、地域に根ざした推進方策を考える。	C	・社会教育委員の「自主的な活動」の具体的な取り組みが示されていない。
②社会教育計画及び各種調査研究 ・地域の実情に即した社会教育計画の策定を行なう。そのために、各種調査及び資料収集活動を行い、計画の遂行及び事業展開のための基礎資料とする。	C	・各種事業のアンケート調査を行い新年度事業の材料としている。 ・事業反省評価会議が予算編成後となってしまった。 ・社会教育委員と仮称「青年団体連絡会議」との連動無し。
③学校開放事業 ・住民の生涯学習活動を推進するため、学校施設を開放し、学習の場として提供するための条件整備を図る。	B	・団体に対する情報の提供が行き届かなかった。 ・職員の定期的な学校訪問による情報交換が少なかった。
④第 30 回ふるさと少年探険隊 ・ふるさとの自然に親しみ、豊かな心を養い、子ども達の郷土愛、忍耐力、協調心を育てる。	A	・岩見沢校との事業協定を明確にする。 ・新たな地域スタッフ確保と育成。
⑤高校生の水産教室 ・漁業後継者を志す高校３年生を対象に、漁業に関する基礎的、基本的な考え方や知識・技術を学ぶ機会を提供する。	A	・中高一貫、自然環境科目群、知床学との整合性。 ・体験航海が尖閣諸島の問題で中止となった。 ・ダイビング実習が荒天で３回中止となった。
⑥成人式 ・成人となったことを祝い、社会人としての有意義な人生を歩むよう誓い励ます機会とする。	B	・担当者の事前の対象者への働きかけと関わり方。※祝福・激励するための想いと仕掛け。 ・思い出づくりを主眼とした成人者自らが関わることへの意識付け。(実行委員会方式の検討)
⑦家庭教育学級 ・家庭教育はどうあればよいのか、親のあり方、発達課題、子育ての悩み等、気軽に考え合える場をつくりより良い家庭づくりを目指す。	D	・支援対象層→社会教育で実施する範囲と保健福祉課で実施する家庭教育の範囲が不明瞭。 ・支援対象者のニーズが不明。
⑧芸術文化活動振興奨励事業 ・町民の自発的、創造的な芸術・文化活動の促進を図るため、町民を対象とした芸術的・文化的な事業を行なう団体に対して助成を行なう。	B	・町内の活動状況の積極的な情報収集。
⑨少年芸術劇場 ・町内の児童・生徒に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供し、豊かな情操の涵養に資する。	A	・予算的に公演依頼先に限りがある ・運営委員への実施意義の確認。
⑩子育て支援関連事業 ・子育てに関する事業を展開する関係機関と連携をとりながら子育て情報の提供を行い、サークル活動を支援していく。	D	・情報収集不足。研修不足。人手不足。 ・子育て支援サークルを中心に支援していく。
⑪郷土芸能振興事業 ・郷土芸能「知床いぶき樽」を学習素材として後世に伝える。	B	・指導者が少ない。 ・指導者育成にむけた支援を行う。

⑫社会教育関係団体等の支援 ・団体をリードする指導者の発掘・養成を推進し、自主自立を目指した継続的な支援・育成を図る。	B	・各団体ともに自主的に活動がなされている。 ・団体リーダーの新規育成。
⑬リーダー養成事業 ・ボランティア活動や教育委員会各種事業を通じて、組織的学習活動の助長を図り、リーダーを養成する。	C	・実績）オジロまつりの人手不足に対し、役場青年部が協力することになっている。漁協青年部にも商工青年部から声がかかっており、協力を了解しているとのこと。 ・具体的な事業が展開されていない。 ・活躍の場の確保がされていない。 ・アプローチが足りない。
⑭ジュニアリーダー研修派遣事業 ・ジュニアリーダー研修に派遣し資質の向上を図るとともに、団体生活の活性化に資する。	A	・積極的な参加奨励。
⑮(仮称)青年団体連絡会議 ・次代を担う青年層が地域(ふるさと)の課題に気づき、課題解決に向けた興味・関心を高め、青年自らが地域づくりに関わる機運・意欲を醸成し、青年各層が交流し楽しみながら活発な活動を創出する(=人が輝く)ことを目指す。	D	
（2）文化財保護調査事業		
①国指定天然記念物保護事業 ・国指定天然記念物の保護と生態、生育環境の調査、一斉調査。	A	・各種調査によって得られた生態、育成環境等について広報し、更なる保護意識の高揚に繋げること。
②道指定天然記念物保護事業 ・隧道工事が行われているマッカウス洞窟の環境変化を定期的に監視する。間歇泉の噴湯調査を実施する。	B	・マッカウス洞窟は平成 20 年の洞窟入口付近上部の岩盤崩落により、安全確保のため、指定地である大洞窟の立ち入りを禁止している。国内最大級といわれる自生地をこれからも保護する上で、住民の理解を得ていく必要があるが、現状では困難になりつつある。安全を確保して岩盤崩落前と同様に見学を可能にする必要がある。 ・間歇泉については、噴湯間隔に大きな変動が確認され、今後も確認調査の継続が必要である。
③埋蔵文化財保護事業 ・古代の歴史を今に伝える遺跡を保存し、事前協議が必要なものに関しては調査を実施する。発掘調査が必要なものは、発掘を実施し、記録として保存する。	A	・平成 26 年度の重文指定を目指して、事務手続き、復元作業等を実施することで、道教委文化課、文化庁調査官と合議した。
④郷土資料館整備・管理事業 ・自然や歴史的文化財を多く残す羅臼町において、その一部に間近に接し郷土への認識を深める。	A	・平成 23 年度に羅臼町郷土資料館として、峯浜町に移転して開館し、来館者数も倍増しているが、場所がよくわからないとの問い合わせもある。 ・公民館より資料の移動がほぼ終了し、郷土資料館の収蔵庫（旧体育館）に収蔵している。これまでの収蔵庫ではスペースが狭く十分な活用を図れなかったが、今後はこれらも羅臼町の歴史を知る上で貴重なものであることから、活用することが必要である。
⑤郷土資料館講座 ・郷土の歴史や文化に親しむ講座を開催し、その理解を深める。	C	・講座については、定員の半分ほどしか集まらず、更なる周知活動が必要である。

（3）公民館事業		
①調査・評価 ・公民館活動充実のため、各種調査・評価を行い事業展開の基礎資料とする。	C	・講座への参加者が少数のため、やってほしい講座も少数意見となっている。
②ふるさと体験教室（知床 Kids） ・らうすの自然を楽しみながら学習し、郷土の文化を愛する心を育てる。	A	・参加しているキッズが、少年団等の他の活動を優先する傾向があり欠席者が多い。 ・毎年参加しているキッズが多く、新規プログラムの開発が必要。
③「こまぐさ学級」 ・趣味活動、教養講座を通じて高齢者が生きがい感をもてる機会を提供する。	A	・若い参加者の発掘。 ・高齢者に即したプログラムの発掘。
④公民館相談事業 ・各種グループ・サークルの自主的な活動を助長し、住民のふれあい活動を促進する。	A	・予算が限られているため周知しにくい面がある。 ・物品貸出しの要望は多いが自主的な講座や学習を要望するサークル、グループが少ないため文化協会と連携を図り、サークル活性化を図るための講座を開催した。
⑤第 42 回羅臼町総合文化祭 ・町内の文化活動をしている個人・団体・グループが一堂に会し、日頃の活動成果発表する機会を提供し、活動の助長を図る。	A	・自分の用件のみの関わりとなる傾向が見られる。みんなの文化祭としての意識づくりが必要。
⑥ふれあいコンサート ・町内の園児・児童・生徒等に音楽の発表の場を提供する。活動の助長を図り、あわせて異世代の交流を通じたふれあいの場とする。	A	・出演団体の固定化、新規出演者が少ない。 ・新規出演者の確保。
⑦児童・生徒美術書道展 ・町内の児童・生徒の美術及び書写活動による作品を一堂に会することにより、一層の情操と創造の心を育てる。	A	・児童・生徒数の減少に伴い、作品数が毎年減少傾向にある。 ・展示スペースにあった安定した出品作品数の確保。
⑧芸術文化鑑賞事業 ・多くの人に知られている著名人を招き、現代社会に即応できるような知識・見聞を深める。又は、生の優れた音楽を鑑賞する機会を提供する。	B	・会場キャパ（客席数）の事情により、高額な費用を要するいわゆる著名人は呼べない。 ・中標津町等で高額な著名人を鑑賞できる環境がある中、低予算で成果が現れる講師選定が困難な状況にある。
⑨ロビー・ホール展示事業 ・気軽に芸術・文化に触れる場とし、また、学習活動の発表の場として活用する。	A	・新規出展者の発掘や新たな展示企画が必要。
⑩知床学講座 ・知床に関わる講座や知床の食材を使った料理教室等を通じて、知床に関する知識の向上を図るための機会を提供する。	D	・未着手
（4）図書室事業		
①資料整備事業 ・町民一人一人の資料要求にきめ細かく対応し、個人学習を支援する。	B	・新刊を中心に厳選した本の購入をしていく。 ・H23 備品購入費１５０万円 →H24　１００万円。（△50 万円） ・新聞雑誌購入費２２万円。

②一日子ども司書 ・図書館の仕事について知ってもらい、適切に利用できるよう援助する。また、本を紹介し読書の動機付けを図る。	A	•子どもたちの情報検索能力を伸ばすためには、内容と回数の充実を図る必要がある。
③読み聞かせ事業 ・本の紹介や読み聞かせを行い、読書の動機付けを図る。また、司書との交流を図り図書室に親しみを持ってもらう。	A	・サークル活動の支援と協力体制の維持。 ・サークル会員への研修機会の提供。 ・子どもの読書活動を定着するためには PTA の協力も得て学校全体での取り組みになるよう方針を立てていくべき。
④図書館バス利用ガイダンス ・町内の子ども達に公共施設を適切に利用する習慣や社会性を身につけてもらうため利用指導を行なう。	A	・事業が定着している。
⑤本との出会い講座・講演会 ・親子の絆を深める家庭での読み聞かせを普及するため、絵本について学ぶ機会をつくる。	A	・親が子どもと一緒に体験し共感する機会をつくる。 ・ブックスタート事業の定着を図る事業内容を考えていく。
⑥第 11 回らうす古本市 ・限られた資源を有効利用しようとするリサイクルの時代に、不要になった本や雑誌を町民に還元することにより再活用してもらい、この活動を通して図書館活動への関心を持ってもらう。	A	・協力者がまだ不足している。 ・ブックブック交換会はまだ定着していない。 ・本の収納場所の確保。
⑦図書室出前事業 ・町民の要望や学校での読書案内の要望にきめ細かく対応し、図書活動の推進を図る。		・公民館と連動した事業で学級生にも好評だった。
⑧ブックスタート事業 ・絵本を仲立ちに赤ちゃんと保護者が温かく楽しい時間を過ごし、一層絆を深めてもらうきっかけづくりのため、母親学級で手づくり絵本を作成したり、乳幼児相談でブックスタート事業を行い、地域の連携によって子どもを育て支援する体制をつくる。	B	•今後 2 歳児相談会において家庭での読み聞かせが継続されているか、アンケート調査を行う。 ・ブックスタート事業を継続させ定着を図るために、技術を伝え継承する司書を育てる必要がある。
⑨道立図書館市町村活動支援関連事業 ・北海道立図書館の市町村活動支援を受けることにより、低迷している貸し出し状況を回復し、図書活動の活性化を図り、子どもの読書活動を推進するための取り組みをしていくはずみにする。	B	・道立図書館からの支援を受けないで図書館機能を保つ事が必要。 ・子どもの読書推進体制を作り事業展開を効果的にする。
⑩(新規)子どもの読書推進ネットワーク会議 •〃地域全体が包括的に子どもの読書活動に関する価値観を共有し、子どもが読書に親しみながら成長するよう環境整備を図るため、ネットワーク会議を設置し機能させる。	C	
⑪図書館バス巡回事業 ・市街地から遠い場所に住む町民へ図書館サービスを提供する。	B	・積載図書の魅力を維持するための図書購入予算の回復。 ・図書館バス巡回の今後について検討。

（5）社会体育事業		
①諸会議 ・社会体育振興の視点から当町の体育・スポーツ並びに健康・体力づくりの振興方策を探り、地域に根ざした社会体育の推進に努める。	B	・会議以外のスポーツ推進員委員活動の充実。 ・これまで重点課題であった総合型クラブの育成支援だが、現段階において一旦役割を終えた当町において、スポーツ基本法で明文化された“関係者相互の連携”や“スポーツを総合的・計画的推進”等の次の一手としての実行が求められる。
②調　査 ・各種調査により、社会体育事業を効果的に実施する方策を検討する。	A	・「町民ニーズを発掘する方法」＝「アンケートのみ」ではない。潜在的スポーツ要求を発掘するための方法は日常的な声掛けや体育館利用者との雑談に転がっていることが多くある。　⇒関係職員の高いアンテナ ・事業に付随する調査（アンケート等）のみでなく、子どもの体力低下や中学校・高等学校の部活動の現状、競技団体のもつ悩み等、スポーツを取り巻く状況の把握を行う必要があり、スポーツ振興と一層の生涯スポーツ社会の実現を見据えることが重要である。
③小学校陸上運動大会 ・各種の陸上競技を適切に行なわせることにより、心身の健全な発達を促し、相互の友愛を深め公平な態度を育てる。	A	・競技以外での態度や応援に対する指導。 ・適切な指導を行なえるよう人的支援。（体協及び町内経験者） ・運営委員会の大会反省から出た懸案事項の継続した協議・検討。
④各種関連事業 ・練習成果発表の場及び町民相互の交流機会の提供を図る。	A	・競技人口の減少と団体の弱体化による参加者の減。
⑤各種スポーツ相談事業・各種スポーツ教室 ・各地域におけるスポーツ・レクリェーション活動を活発化させるとともに、自主活動の促進を図る。	A	・外部講師を招聘する講習会では、予算措置が不十分。 ・現在、主に職員が直接指導で対応しているが、多様化する志向と幅広い年齢層にあったニーズに安定的に対応するのは難しい。研修会参加等学びの機会が必要であるが、研修予算が削減され機会が乏しい。〃
⑥学校体育施設開放事業 ・地域住民の居住地域である学校体育施設を開放することにより、スポーツ・レクリェーション活動の促進を図り、健康・体力づくりの意識付けを図る。	A	・施設の老朽化。
⑦子どもの体力向上事業 ・運動習慣及び望ましい生活習慣・食生活の育成を図るため、児童生徒の体力・運動能力の向上を推進する。	A	・自らが進んで、運動・スポーツに親しむ習慣や体力を養うことのできる機会提供と環境整備が課題である。 ・幼青少年期の体力低下から起因する様々な諸問題を学ぶ（父兄を対象とした）場が必要である。 ・RACOT が主体となり順序立てたアプローチから羅臼小学校全学年に試行的に導入できた。この取り組みに関し実務指導や研修会開催等に密な連携・支援が実現し、来年度以降 RACOT が主体となる更なる取り組みの糸口をつかむことができた。少年団現場からの実施要望もあることからも、COT を通じた子どもの体力向上に期待する機運は徐々に高まりを見せている。

⑧指導者（リーダー）養成事業 ・地域リーダーやスポーツ活動をけん引する指導者の発掘・養成を推進する。	A	・スポーツニーズや団体の実態にそくした指導者養成事業の展開が必要である。 ・外部指導者（講師）の派遣等では団体とのつながりから元アスリート等を招へいした事例もあること・近隣市町村の指導者にも優れた人材がいることを等を踏まえ、町全体のスポーツ振興の視点から、団体・関係（管内・外）機関との連携を密にし、情報収集と具体策の展開が求められる。〃
⑨体育施設の整備・充実 ・各スポーツ施設の整備および効果的な開放の促進を図る。	B	・３年前に行われた大規模改修は内装、外装が主であり、それ以外の部分（屋根、ボイラーダクト、壁モルタル等）は経年による劣化がかなり進んでいる。 ・利用団体の構成人数の増減や活動状況の変化から、体育館利用割の見直しが必要である。（アリーナの有効活用）
⑩社会教育関係団体等の支援 ・団体をリードする指導者の発掘、養成を推進し、自主自立を目指した継続的な支援、育成を図る。	A	・体育協会に対し加盟団体の関わりが薄い。 ・単位団における技術指導者の不足。 ・体育協会加盟団体、スポーツ少年団加盟団体への活動支援。 ・中学校、高等学校の部活動加入率の低下。 ・スポーツ少年団競技種目の限定化…？（今後の課題）
⑪各種補助事業 ・各種スポーツ団体がより活発な自主活動を展開するための経費を補助する。	A	・管外大会派遣費助成について、近年大会の種類が増え、対象の見極めが難しいものがある。 ・町バスの貸出基準に及ばないが、明らかに町バスの方が金額や移動に効率が良い場合がある。その都度、有効手段を選定しているが調整が難しい。 ・管外派遣費助成の内規の作成や町バス貸出基準の見直しが必要。 ・町補助金は、団体の性質・事業効果等を見極め現在の補助金額を最低ラインとして今後も継続的な補助が必要。

第Ⅳ章　外部評価委員の意見

１ 学校視察を通して

【全体的に】

羅臼の幼稚園、小・中学校とも児童生徒園児の事を考えた学校・園経営や学級経営がなされていると感じた。また、教員の研修が他地域よりも充実するとともに、教員の学ぶ環境が改善されていると感じた。そのことと関連し、教員の授業への熱意が感じられた。さらに、ここ数年の学力向上への取り組みが効果を挙げてきていると感じる。特に学力テストでの数値は目を見張るものがあると感じる。日々の先生方の努力に敬意を表したい。

【良いと感じたところ】

⑴ 羅臼中学校での「振り返りシート」の活用は、生徒個々の理解度を把握すると共に、自己の振り返りにもなり、学力向上に有効であると感じた。
⑵ 羅臼幼稚園の園内掲示が素晴らしく、１人１人を育てていることを実感させた。
⑶ 羅臼小学校の学習支援などでＰＴＡの連携がなされていると感じた。防災訓練の取り組みが子どもの命を守る上で大変良いと感じた。
⑷ 春松幼稚園の小学校を見通した年間計画（活動計画）が大変良いと感じた。特に自然を生かし、自然と共に地域を愛する気持ちを育てていることを実感した。
⑸ 春松小学校の縦割り活動が充実されていると感じた。学力向上への取り組みが効果を挙げていることを実感した。
⑹ 春松中学校での若い先生方の頑張りが伝わってきた。生徒の学習態度、授業に向かう姿勢が素晴らしいと実感した。

【今後に期待したいこと】

学力向上に向けて取り組まれて、成果を挙げていることが大変素晴らしいが、以下の点が気になり、今後に期待したい事を記載した。

〇幼稚園・小学校について

各校とも羅臼の自然を背景に生き生きとした学習活動が展開できる環境にあると感じている。羅臼・春松幼稚園ではユネスコスクール実践計画が立てられ、年間を通して羅臼の自然の恵みを実感出来る内容となっている。小学校では、小学校生活科及び総合的な学習の時間の年間計画を見ることはできなかったが、幼稚園と小学校が羅臼の自然を生かした学習活動で連携ができれば、体験と学習が一体化されるとともに、児童の学びへ、良い効果を示すと考えている。

先の学力テストでは、「観察・実験が好きな児童ほど理科の平均回答率が高い傾向にある」と国立教育政策研究所が分析している。また、「体験を多く積む児童ほど学習意欲が高く、家庭での学習時間が長いという傾向にある」ことを道立教育研究所附属理科教育センターが分析している。このことからも、自然での体験を存分にできる環境にある羅臼を生かし、幼小の連携を図ることが次のステップのように感じている。

現在、学力問題で国、数が重視される傾向にあるが、教科のバランスある学力が今求められている学力であることからもユネスコスクールに指定された羅臼の学習に期待したい。

〇中学校について

落ち着いた雰囲気の中で、意欲的に学ぶ生徒の姿を見ることができた。この姿が今後の羅臼の学力向上につながっていくものと期待したい。

授業を参観し、振り返り活動など、様々な学力向上への取り組みを見取ることができた。その中で、気になったのは、本時の授業での到達点が何であるかが参観していてよく理解できなかったことである。全体に周知できるように、黒板等に、本時で何が理解できるようになるのかを示してはどうだろうか。「この１時間でこれがわかるようになる。」と具体的な到達点を示す授業が他地域でも見ることができない。１人１人が落ち着いて授業に取り組める学級故に、もう一段階上の『学びの到達点に向かう意欲にあふれる生徒の姿』を見たいと感じた。

２　内部評価報告書から

幼稚園教育・学校教育の主な推進項目と評価

【重点項目】

ハード面の課題は残っているものの、職員の努力でそれを補っている様子が窺え、評価できる。

連携について課題としているが、小さなコミュニティであるので、子育て期からの繋がりを継続させていくことによって、充実していくものと思われる。よって、子育て支援センターとの連携を充実させていくことと連動する必要がある。

１点目「人間形成を培う幼稚園教育」

◎幼小の連携がなされている現状から、接続カリキュラムの作成が今後必要と感じる。特に、羅臼の自然を生かしたカリキュラムは、幼小での連携の上で必要と感じた。教科書を教えるではなく、教科書を活用し、羅臼の身近な素材を活用できる教員が羅臼には必要であると感じる。

◎道研等の研修の活用は成果を挙げている。今後も研修の機会を多く利用し、全教員が必ず一度は研修に行く体制を継続していって欲しい。また、教員が地元の研修会、研究会や、郷土資料館講座、知床学講座等にも積極的に参加できる体制を作っていって欲しい。

◎ユネスコスクールでの取り組みなど、一貫したカリキュラムを作成することで幼稚園と小学校の連動が意識でき、個別の連携プログラムつながっていくものと思われる。食育の取り組みも「食生活」「食習慣」を支援する上でも、できるだけ早い時期から開始すべきである。また、その意味を、保護者に伝えていく機会も作るべきである。

２点目「確かな学力を育む学習指導」

◎放課後学習の活用とともに、今年度より基礎実習でお世話になります。学生が学校を訪問することによりどんな利害があるか検討し、よりよい大学との連携を模索したい。

◎授業の改善、一貫教育としての連携の充実が図られていることが窺え、高く評価できる。また、ＰＴＡとの連携に課題はあるものの、家庭での取り組みに変化が出てきて

いることも評価できる。保護者への一層の支援の充実が望まれる。放課後学習など、子ども自身の意欲を育て主体的に学ぶ姿勢が育ってきていることは、高く評価できる。

３点目「信頼される学校教育」

◎「地域の子どもは地域で育てる」という地域や保護者側の育ちをより一層支える必要がある。また、「地域の子どもを育てる」という学校教員側の意識の低さがあるように思われ、「羅臼の学校」の役割や使命が教員に明確に示され、それが徹底される必要がある。

４点目「豊かな心や健やかな体を育む教育」

◎幼小中が連携した避難訓練は毎年継続すると共に、中学生・高校生が避難時には、防災のリーダーとして活躍できる意識を育てていって欲しい。また、学校が避難所になる可能性も高く、その際の教職員の立場や、実際の避難所での体験をするキャンプなども今後検討されていくとよいと感じる。

◎やはり、保護者との連携に課題がある。学校教育に保護者を巻き込んでいく戦略が必要である。安全教育のカリキュラム化が必要と思われる。

５点目「羅臼町支援教育の推進」

◎支援を要する子どもの捉えを「医療モデル」から「生活モデル」に視点を変え、充実してきていることが窺え、評価できる。
社会的資源のない地域であるので、学校教育の一層の専門性確保が必要である。また、支援を要する子どもを育てる保護者を支え、保護者同士を繋げていく取り組みが必要である。

社会教育の主な推進項目と評価

◎「ふるさと少年探険隊」は岩見沢校との事業協定を明確にする。時期が前期終了時期と重なるため、事前の日程把握ができれば、釧路校第２専攻との連携も可能ではないか。

◎前年度からの課題であるが、家庭教育学級及び子育て支援関連事業の充実が望まれる。

◎青年の組織化の目論みは、評価できる。時代の流れから、むしろ青年の組織化は困難な時代となっている。しかし、羅臼町の将来を見据え、青年を育てていくことは、重要な課題であり、町が「青年を必要としている」、青年自身が「必要とされている」という実感が持てるようなプログラムの開発が必要である。

◎社会体育事業の充実は、高く評価できる。ますますの発展を期待する。

◎社会教育事業については、⑦家庭教育学級・⑩子育て支援関連事業・⑮青年団体連絡会議の各項が水面下では動きがあるようだがＤ評価である。原因は教育委員会職員、特に社会教育主事の不足からくるものが大である。これらの事業については専門性と長期の時間、継続性が求められるものであり、町の現状からして今一番必要な事業である。今後とも町長部局に対して職員を増員するよう訴えるべきである。